

40 明治11年7月24日 菊池長閑

第六号七月廿四日記

第六号本月八日達し過般我等余命あるましく云々ニ付心付詳細取調吳忝存候第五号にも申入通り行末を考ふるに如何にしても頼ミ少なに□なれ安心之事もなき故不知不識歎息し余り心に浮次第思慮なく申遣一般配慮為致今更申訳無之千悔罷在候只今ニ而は政国貰受候得は唯今にも万一之事あるとも一々他を頼ニ及間敷内事之事ハ未た任され共其人たるや兼々申入置通沈着にして気量あるニハあらされ共取守る処ありさうニ見得候間貴様帰朝までハ兎ニ角間を合する位ハ出来さうニ見得候間此上ハ藤田エ之手紙等ハ差出ニ不及候藤田も甥中ニハ年輩なれハ家事向ハ依頼するも能はつなれ共実ハ存慮難落着事有之候却て藤田程ハ不屈共山本之方安心ニ候野田も今少し年増候ハ、一方頼母しく可有之候」写真師親敷成たるニ付尋る事あらハ云々承知せり此節も取懸り居ならハ幸之事なるに実ハ見込通ニ参らす兩三年前より人ニ譲り我ハ止メタリ曾而眼鏡にても用ひるやうニ成てハ何事も度ハ後れ所詮埒明不申而已ならず此地ニ而は写真ヲ以活計之足メニハ六ヶ敷然し千万政国ニ而も懸る気あらハ問合する事もあるへし手懸ねハ嘶計にてハ訳らぬものなれとも幸之事ニ候間心付丈ハ聞置可申候」此節暑中なるに本月ニ入ると雨天勝

ニ而今日として多少降らざるなし就中此三日計ハ雷氣日に幾度なく夕立之模様以之外なり我等位以上ハ家中ニ而ハ裕用ひる様ニ候蛭ハ少し蚊も至而不足又萩之花開たる処もあり是ハ当地之氣候ニ而ハちと早過る様ニ被考候面白からざる様ニ候其地之氣候如何なるや」又四国辺にもやくやあると之噂也新聞などにも見得ねハ如何あるものや是もメッタナ事なき様祈る所也」河村氏ハ此節帰郷中なり別事無之候得共六号之返事方々暑中見舞右申入候此元一同無事消光ニ候以上

武夫殿

長閑

猶以此元新聞田舎文ケ不得止されと余り詰らぬ事のミニ候珍ら敷事ハ編輯長へ為知申度候間取調可遣候種々可有之候得共小学校之体裁并其外何義ニ寄らす田舎者之耳目驚かしへきもの也

(封筒裏)

「亜米利加国ポストン府

ホートウイン。ストリート

二十二番 (武夫庄記)

菊池 武夫殿

要用報平安

(封筒裏)

「大日本岩手県陸中国盛岡

外加賀塾八十六番

菊池 長閑

」

(既未注記)
「Ans'd」